

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
62

2020

新型コロナウイルスと 季節性インフルエンザの同時流行に備えて

DOCTOR'S VOICE 01 炎症性腸疾患にかかる診断・治療・支援に全人的に取り組む

DOCTOR'S VOICE 02 人生100年時代、臨床に強い医師の育成を目指して

DOCTOR'S VOICE 03 安全管理やスキルアップと併せて、効率化や薬局薬剤師との連携を推進

DOCTOR'S VOICE 04 病院・医学部全体の包括的な災害対策と愛媛県との連携強化に着手



人工呼吸／ECMO講習会の風景

炎症性腸疾患（IBD）センターの設置

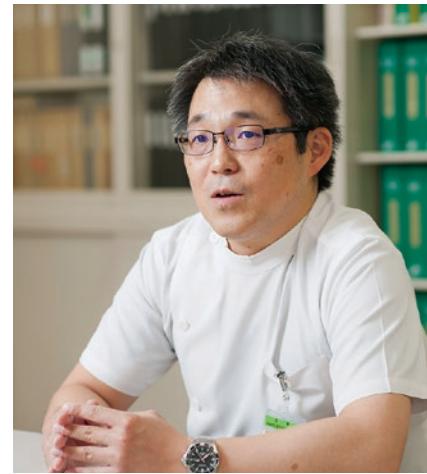
炎症性腸疾患にかかる診断・治療・支援に全人的に取り組む

炎症性腸疾患（IBD）センター長 竹下英次

炎症性腸疾患（IBD）は愛媛においても年々増加し、県内における患者さんは潰瘍性大腸炎で2000人、クロhn病で500人とされています。当センターは、潰瘍性大腸炎やクロhn病など腸管の免疫異常で起こるIBDの診断・治療と社会生活へのサポートを総合して行っています。

寛解と再燃を繰り返す慢性・難治性のIBDの診療は、消化器内科のみならず、内科・外科・小児科・放射線科など複数の診療科の協力が必要です。治療も医療の進歩によって薬物治療以外の選択肢も多く、複雑な治療を理解し提供する高い専門性が求められます。若年者に多い疾患であることから、治療と社会生活の両立も重要であり、多様な専門職による円滑な連携支援も必須です。当センターでは、センター化によって、専門医・看護師・薬剤師などの医療関係者に加え、栄養士や難病医療コーディネーター、社会保険労務士など多方面からの協力を得て、全的なサポートを行っています。

またIBDを広く知ってもらうことも大事であると考えます。どういった病気かを広く知ってもらい、診断や治療に繋がりやすくなるため、今後広報活動にも力を入れてゆきたいと思います。



PROFILE

たけしたえいじ◎1996年愛媛大学医学部卒業。第三内科に入局。県立中央病院、県立北宇和病院、2005年大学院卒業後は、松山赤十字病院、市立宇和島病院を経て当院へ。消化器内視鏡診断・治療が専門。2020年4月より現職。趣味は音楽鑑賞をしながら、少し遠まわりのドライブ。

新総合臨床研修センター長紹介

人生100年時代、臨床に強い医師の育成を目指して

総合臨床研修センター センター長 熊木天児

私は愛知県立旭丘高校を卒業後、愛媛大学に進学しました。同期の第17期はえひめ愛が強く、最も母校に残った学年です。現在は研修医育成のマネジメントを担当しております。前任の高田清式先生が築きあげられたものをベースに、愛大の強みであるOSCE・シミュレータ教育にさらに力を入れ、研修医主体のコアな勉強会の導入を目指します。初期研修の2年間は、医師としての基礎を学ぶ時期です。患者さんの症状から様々な病気を思い浮かべ、人として気持ちに寄り添い、診療を進めていく過程を身につける必要があります。

私は昔から漠然と医学教育に関心がありました。トロント大学で確立された教育システムに刺激を受けました。目標が明確で、段階を踏んで学び、研修医だけでなく、指導する側も評価されるものでした。帰国後も教育・指導に積極的に携わり、医学生と研修医の変化も間近で見続けてきました。これまでの海外での専門診療から地域医療・プライマリケアまで幅広い分野での経験を活かし、時代のニーズに合わせつつ、世界にも通用する医師の育成を目指します。そして、「知るは喜びなり、知るは楽しみなり」を共有しながら、これからも若者と共に学んで参ります。同時に、一人の臨床医として、診療はもちろんのこと研究・論文執筆も続けていきたいです。



PROFILE

くまとてる◎1995年愛媛大学医学部卒業後、第三内科に入局。2006年にカナダ・オンタリオ州医師免許取得後、トロント大学消化器内科で診療に従事。帰国後、愛媛大学医学部地域医療学講座准教授等を経て2020年4月より現職。趣味は若手育成、英会話、論文作成、子どもたちとの釣りや青春18きっぷの旅。

新薬剤部長紹介

安全管理やスキルアップと併せて、効率化や薬局薬剤師との連携を推進

薬剤部 部長 田中 守

私は病院経営改善への寄与と医薬品安全体制のさらなる改善に取り組みます。2020年度に約1600件/月となる薬剤管理指導件数を200～300件/月増加する予定です。件数の増加に伴い、患者さんに関わる密度も増え、よりよい治療に繋がると考えています。また、業務におけるマンパワーの効率化を目指し、調剤室・注射室・製剤室・麻薬室等をセントラル部門として一元化しました。これにより業務のブラッシュアップと同時に人的資源に余裕ができ、その余力を新たな試みであるHiMEネットを活用した調剤薬局薬剤師の参画に投入します。薬局薬剤師から医師へのフィードバックの質向上や、調剤薬局と看護師、管理栄養士などの院内スタッフとの連携促進になるとを考えています。さらに、外来患者さんの中でも、吸入薬がうまく吸えない、自己注射がうまくできないなどのリスクを抱えた患者さんへのフォローアップに注力します。院内だけでなくかかりつけ薬局と連携することで、患者さんを中心・主体とした治療の実現を目指します。病気の主症状に対する薬物治療だけでなく、患者さんの抱える不安や困難についても関わりを進めています。



PROFILE

たなかまもる○今治市出身、小・中・高は西条市の愛媛育ち。徳島文理大学薬学部薬学科卒業。医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師、医薬品情報専門薬剤師。愛媛大学附属高校、教育学部附属中学校・特別支援学校の学校薬剤師。2020年7月より現職。趣味は免疫力向上のためにジョギング。

病院長補佐（災害担当）紹介

病院・医学部全体の包括的な災害対策と愛媛県との連携強化に着手

病院長補佐 災害担当 佐藤格夫

愛媛大学医学部・附属病院において災害対策本部では医学部長が災害対策本部長に病院長が災害医療本部長になります。ひとたび大規模災害になると災害拠点病院として院外にも役割が拡がり、愛媛県の災害医療対策本部や災害医療コーディネーターとの連携などが必要となります。今回、病院内の体制強化とともに病院の内外との連携・協力をスムーズに行うため、本役職に就任いたしました。また、災害対応というと、DMAT（災害派遣医療チーム）も関わってきます。DMATの訓練を受けた医療関係者は救急科を中心に他の診療科や看護部門、事務職にも在籍しており、大学内外での対応をDMATメンバーが効率よく機能するようにしていく必要があります。今回の組織改変により、病院長の補佐を行いながら、拡大する災害対応に柔軟に応え、大学医学部の中の具体的な組織づくりにも着手していきたいと思います。今年経験した新型コロナウイルス感染症や、その中で起こりうる地震・台風・豪雨といった自然災害との複合災害など今までに経験したことのない災害にも臨機応変に対応できる組織を目指していきます。病院全体や医学部（医学科・看護学科）まで広く災害の意識を高く持てるよう、広報・訓練も行っています。



PROFILE

さとうのりお○1995年愛媛大学医学部卒業後、同年日本医科大学救急医学教室、2011年京都大学初期診療・救急科の講師・准教授、2017年愛媛大学救急航空医療学の教授などを経て、2019年4月から救急医学講座教授、12月から現職（救急医学講座教授・救急部部長兼任）。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛（継続中）。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

DMAT隊、熊本で 「令和2年7月豪雨」の災害支援活動



令和2年7月9日(木)、熊本県の「令和2年7月豪雨」の災害支援に、医師・看護師・薬剤師等5名からなる愛媛大学医学部附属病院DMATを編成し、熊本県南部被災地内の医療調整本部にて、約3日間、支援活動を行いました。本部機能の一旦を担うだけでなく、診療や搬送、避難所等の状況確認や、他県の派遣医療チームとも連携をとりながら支援を行いました。当院では、今後も可能な限り支援を行っていきます。

総務課総務チーム ☎089-960-5125

ボランティア感謝状贈呈式を実施



令和2年8月6日(木)、ボランティアいきいき会の感謝状贈呈式を開催し、活動員及び職員16人が参加しました。いきいき会は、医学部附属病院の医療関係者と協力して、患者さんが少しでも快適な環境で安心して治療が受けられるように、病院でボランティア活動を行っています。今回、貢献活動時間が長い会員や多大なる功績を挙げた9人の会員に感謝状を贈呈しました。今後もいきいき会と協力して日々の活動に励んでいきます。

医療サービス課 ☎089-960-5182

愛媛県、ノバルティス ファーマとの 産官学連携協定を締結



令和2年7月28日(火)、愛媛大学は県民の心不全及び高血圧を中心とする循環器病対策を相互に協力して進める、産官学連携協定を締結しました。愛媛県は心不全死亡率が女性は全国1位、男性は全国2位という状況で、心不全に関わる対策が喫緊の課題です。本協定では3者が連携し、循環器病対策を実施することで県民の健康寿命の延伸や、循環器病に関連する死亡率低下などの実現を目的としています。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5225

応援メッセージへの お礼

この度、当院医療従事者に向けて、個人・企業・官公庁を問わず様々な方から応援のメッセージや花束などをいただきました。このような温かいお言葉は第一線で奮闘している当院医療従事者の励みとなっております。未だに猛威を振るっている新型コロナウイルスの県内感染拡大を防止すべく、職員一同、引き続き感染対策・対応により一層努めて参ります。心温まるメッセージをいただき、感謝申し上げます。

編集後記

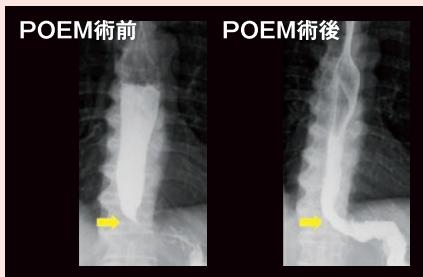
本号では、各部署の責任者に就任された先生およびトピックスについてご紹介します。表紙のECMO講習会を筆頭に、新型コロナウイルスに関する内容として複合災害への備えおよび対応、医療従事者に対する労いのお言葉が取り上げられております。

一方、様々な制約がある中、難治性疾患への対応および新規治療の導入、医療人の育成、医薬品安全体制の構築、循環器病対策に関する産官学連携協定にも取り組んでおり、病院として日々前進しております。皆様におかれましてもインフルエンザとの同時流行に備え、マスク着用や手指消毒はもちろんのこと予防接種を受けるなど、しっかりと感染予防対策を講じて下さい。

広報委員会委員長 熊木天児

◎表紙: 人工呼吸/ECMO講習会の風景

四国初POEM手術が保険診療化



食道の出口の筋肉が開きにくくなり嘔吐や胸痛を引き起こす「食道アカラシア」の高難度手技治療である「POEM(経口内視鏡的筋層切開術)」を、2019年より四国で初めて開始し、この度、保険診療が適用化されました。同治療術は、体の負担や合併症がないことが利点で、世界でも食道アカラシアの治療の第一選択として認知されています。当院では既に10例以上手術し、良好な効果が得られています。

第三内科 ☎089-960-5308



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>